

利根川國

芝琵琶也耶吁、

飛鳴有鳥角田川名曰京都聲自然我亦舟中溢浦客斷觴認作琵琶絃、

〔書言字考節用集一乾坤〕利根川利根郡万葉作刀禰云上野利根郡〔倭訓采前編十八〕とね止謂之坂東太郎とね川は上野國利根郡也、三大河の一也、源顯家の足利義詮を破りし所

也、

〔類聚名物考地理三十一〕利根川利根郡とねがは 上野利根

利根川は上野國西なる利根郡を経て流る、川故にその名あり、此川關東の大川にて、武藏下野、常陸、上總下總の國の境を経て海に入る、その間幾十里といふ事を玄らず、川末に至りては、その間に島々ありて、潮來などいふ、三所にてはその川はば七里有りといふ、本朝第一の大川なる故俗に坂東太郎といふ、是に次ぎては西國の筑後川なるよし、それを次郎といふとかや、今また此利根川關宿より一筋わがれて、其間國府臺行徳を経て海に入、枝川あり、是を新利根といふ、此川を物積て近國より江戸へ運送なす故に、また江戸川ともいへり、思ふに昔し角田川といへるは、此川の枝川にて、今の新利根にはあらで、栗橋川股などのほどより、一の枝川有りしが、それを云ひしにて有るべし、今杉戸のこなたに、昔の角田川のあと、であり、その所なるべしと考へぬ、猶是は予が書る武藏志料につまびらかに角田川の條に玄るせり、事繁ければ此に略す。

〔利根川圖志總論〕利根川は、本源を上野國利根郡藤原の奥なる文殊山に發す、義經記卷三、賴朝叛事條に隅田川の謀事を言ふとて、此の河の水上は、上野國利根庄藤原といふ處より落ちて、水上遠しと記せるは、古事記へり、こは陸奥越後に、故に郡名を以て直に川名とす、利根郡の名は延喜式に見え、倭名鈔に利根は尖リタル峯多ケレバ、利峯ノナルベシリタル見ゆ、猶考ふべし刀禰と書きたるは固より假字にて、義あるには非ず、○中此の川大別して上中下の三利根川と爲す、其の上利根川に入る者は赤谷川發知川白根川片科川。